

インドネシアにおける廃棄物 の現状と課題

インドネシア・ハビタット・プログラム・マネー
ジャー
ドド・ジュリマン

背景

- 急速な都市の成長と都市化は、都市サービスを供給する側に甚大な緊張感をもたらしている
- 廃棄物管理は、都市（特に大都市）管理の中でも最大の課題のひとつ。（>人口100万以上のメガ都市: Jakarta, Bandung, Surabaya, Semarang, Makassar, Medan and Palembang, および人口50万-100万の大都市: Padang, Bandar Lampung, Bogor, Solo, Malang）
- インドネシアの384の都市からは、日に80,235トンの廃棄物が排出される。処理の内訳は野積み(4.2%), 焼却(37.6%), 河川に投棄(4.9%) および未処理(53.3%)。

廃棄物管理システム

- 国内7のメガ都市のうち、4都市(Jakarta, Bandung, Semarang and Surabaya)ではゴミの埋め立て処分を行っているが、残り3都市(Medan, Palembang and Makassar)ではまだオープンダンプングを行っている。
- 国内5の大都市のうち2都市(Padang and Malang)ではゴミの埋め立て処分を行っているが、残り3都市(Bandar Lampung, Bogor and Solo)ではまだオープンダンプングを行っている。

廃棄物管理の課題

インドネシアでは廃棄物管理に関する課題は、主に以下の3分野:

1. 技術的な課題(処理能力, 廃棄物の内容・成分の管理, また状況変化への対応の不足)
2. 制度的な課題 (規則の整備, 監督・実施機関の未整備)
3. 財政・管理の課題 (収集コスト負担の周知やコスト管理能力, 運営管理能力の不足)

廃棄物管理分野におけるニーズ

将来的なニーズ:

1. 環境に配慮した廃棄物管理の方法
2. 手ごろな範囲の投資コスト
3. 低コスト運営とメンテナンス
4. 堆肥化（堆肥の質が化学肥料と競合レベルになれば）
5. 「ごみ漁り」の人たちも含めた労働集約型の管理システムを導入